

1 重点戦略プロジェクト設定の枠組み

■プロジェクト設定の考え方

- ・地域創生の根幹をなす「まち」「ひと」「しごと」の3本柱とその効果を高める2つの横断的な取組の計5つのプロジェクトを設定
- ・当面の人口減少を前提とし、それに対応できる地域づくりを進め、全国に先んじてこうした課題のあるべき姿を示す

北海道を応援するあらゆる人たちの
関わり・つながりの創出

4

「北海道らしい関係人口の創出・拡大」
プロジェクト

地域に参加
地域活性化

人口減少下でも
心豊かに暮らせる
地域づくり

1

「心豊かに・北海道暮らし」
プロジェクト

観光リピート
消費拡大

多彩な価値・
魅力を活かした
しごとづくり

2

「磨き高め輝く・北海道価値」
プロジェクト

愛着・還流

未来をけん引する
人づくり

3

「未来をけん引・北海道人」
プロジェクト

未来技術による
施策の効率化・効果の最大化

5

「北海道 Society 5.0」
プロジェクト

① 「心豊かに・北海道暮らし」プロジェクト

～ 人口減少下でも心豊かに暮らせる地域づくり ～

これまでの主な取組

◆ 少子化対策及び子どもの貧困対策

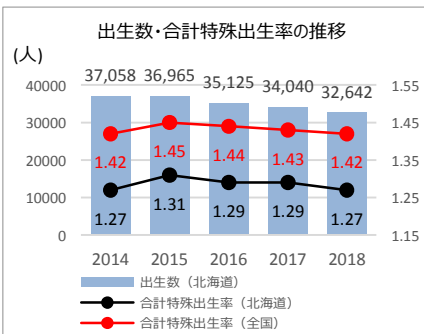
- 第2子以降の不妊治療費等に対する助成、3歳未満の第2子以降保育料の無料化（H29～）
- 子どもの居場所づくりに対する支援、子どもの貧困対策の地域連携体制の整備（H28～）

◆ 商店街や中心市街地の魅力や機能の充実

- 商店街の空き店舗を活用したコミュニティビジネスの創出検討及びコミュニティ拠点づくりの取組を支援（H28～）

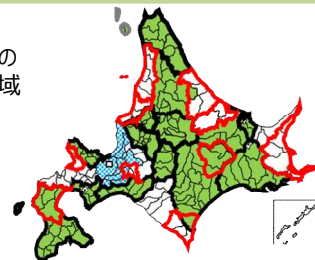
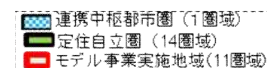
◆ 持続可能なまちづくりの推進

- 「ほっかいどう元気なふるさとづくり交流大会」を開催し、集落対策に取り組む関係者間での情報共有や連携強化を図るとともに、集落課題に係る相談会を開催（年1回（H27年度～R1年度））



◆ 道内市町村間の広域連携

- 14圏域での定住自立圏、1圏域での連携中枢都市圏の形成のほか道独自の取組「市町村連携地域モデル事業」により、11地域45市町村において観光・移住・医療等の連携した取組を推進（H27～R1）



◆ 公共交通ネットワークの維持・確保

- 十勝地域において駅やバスターミナルにおける案内看板の改善やダイヤ接続の見直し、MaaSの実証実験（実証実験：R1.10, R2.2）
- 道内バス事業の生産性向上と運転手確保に向けたモデル事業の取組を踏まえ、標準的なバス情報フォーマットの普及やICTを活用した実証実験（DohNa!!）を実施（R1）

2020年度の推進方向

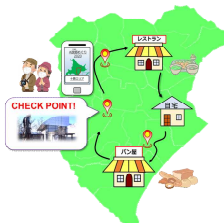
「新北海道スタイル」安心宣言



新北海道スタイル

◆ 「新北海道スタイル」道民運動の展開

- 新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、道民と事業者双方が、感染リスクを低減させる「新しい生活様式」を実践、可視化
- 北海道らしいライフスタイル、ビジネススタイルとして日常に浸透・定着
- 「新北海道スタイル」の普及と消費喚起に向けたプレミアム付商品券・電子クーポンなどの発行 等



◆ 地域の魅力を再発見するモバイルスタンプラリー

- 地域の元気・活力の回復に向け、振興局管内での人の流れの活性化、消費の域内循環、住民による「新北海道スタイル」実践・拡大を促進

子育て・教育環境の整備

◆ すべての子どもたちが幸せに育つことができる社会の実現

- 保育士資格の取得を目指す学生の修学資金の貸付や保育補助者の雇い上げ経費の貸付、市町村の行う第2子以降の3歳未満の乳幼児に係る保育料の無償化を支援 等

◆ 子どもたちの確かな学力・体力の育成

- 児童生徒の学力・体力の向上を図るため、学校全体の組織的な検証改善サイクルの確立や、体育専科教員の配置・巡回による授業改善
- ICTを活用したオンライン学習の効果的指導方法を確立するためのモデル実証 等

安心できる医療・福祉の充実



◆ エールを北の医療へ！

- 新型コロナウイルスの感染拡大から地域医療を守るための寄附を募集し、医療従事者等への感謝品の贈呈や保健所等の医療用資機材の整備

◆ 第3波以降に備えた医療提供体制等の充実強化

- 医療機関等の感染症病床の確保への支援やPCR検査センターの増設、患者受入機関等の体制確保に向けた医療チームの派遣支援 等



◆ 福祉施設等における事業継続の確保

- 集団感染が発生した施設への介護職員の応援派遣や施設内での療養体制整備に対する支援 等

行政サービスの維持・生活インフラの確保

◆ 広域連携による行政サービスの最適化

- 振興局、各市町村、有識者を交えた「地域課題連携対応研究会」において広域連携を図るべき事項を検討・整理し、「広域連携前進プラン」を策定 等

◆ 持続的な交通ネットワーク形成の推進

- 鉄道やバスなどの運行が厳しい状況となり地域交通に空白が生じる恐れがあるエリアの交通手段確保に向けた検討とモデル事業の実施
- 交通事業者が乗り放題乗車券等を企画・販売する場合、その割引相当額を補助 等

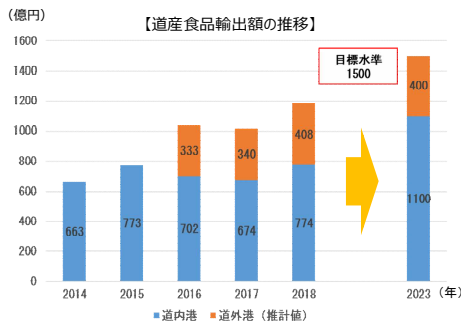
② 「磨き高め輝く・北海道価値」プロジェクト

～ 多彩な価値・魅力を活かしたしごとづくり ～

これまでの主な取組

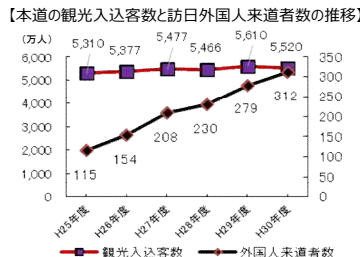
◆道産食品の輸出拡大

- ・シンガポール及びタイでの道産品アンテナショップを活用し、テスト販売や卸・あっせん先の開拓、道産食品消費拡大キャンペーンを展開
- ・JETRO北海道、フード特区機構と連携し、「道産食品輸出塾」をスタート。香港、台湾への輸出に向けた商談会やプロモーションを実施



◆質の高い観光地づくりの推進

- ・道内各地での日本版DMOの形成・確立を図るため、中核人材を育成する研修や地域への専門家派遣等
- ・市町村や観光協会等が取り組む観光地づくりの支援、アウトドアガイド認証制度の運営・普及促進、体験型観光に関する受入整備や情報発信等



◆宇宙分野における新ビジネス創出

- ・展示会出展等を通じて本道の航空宇宙関連の研究・実験施設等のPRを実施
- ・企業、経済団体、専門家、研究機関、行政等で構成される「北海道衛星データ利用ビジネス創出協議会」を設立し、情報提供や相談対応の各種取組を実施 (道内外の展示会：年2～3回、セミナー・研修等の開催：R1年度9回)



大樹町で令和元年5月に打上げが成功した観測ロケット「MOMO」3号機 (インターステラテクノロジズ(株))

2020年度の推進方向

道産食品等の需要喚起

◆通販サイトを活用した道産食品販売キャンペーン

- ・新型コロナウイルスの影響により売上が落ちている道内の食品製造事業者を支援するため全国の消費者に道産食品を届ける通信販売等

食絶景北海道



◆道産食品の道内販路確保

- ・道民の道産食品の消費喚起に資するよう、道内百貨店等での感染予防対策を講じた売場確保や宅配サービスにより食関連事業者の販路確保を支援

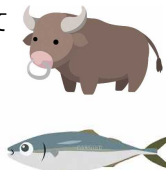
「おうちで応援」
かって北海道

◆「おうちで応援！かって北海道！」運動

- ・統一的なキャッチコピーやイメージのもと、企業や団体と連携しながら道産品購入の取組を道民運動として展開

◆農林水産業の需要喚起

- ・道産牛肉や水産物の道内小・中学校等への給食用食材として提供
- ・北海道漁業協同組合連合会が行う道産水産物の需要喚起等に向けた取組への支援
- ・木材の国内消費に向けた施設整備等への支援等



感染拡大防止と経済・文化活動の継続等

◆道内旅行商品割引 (どうみん割)

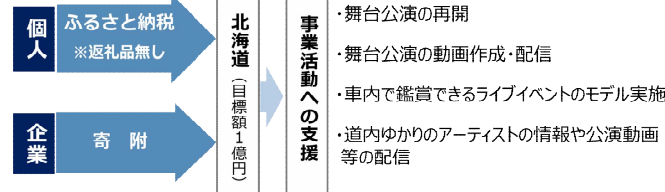
- ・新型コロナウイルスの影響により落ち込んだ旅行需要の早期回復を図るため、道内における宿泊を伴う旅行商品等を造成・販売する旅行会社や観光施設等に対して支援

◆教育旅行の支援

- ・「新北海道スタイル」に対応し感染リスクに配慮した「教育旅行」の取組支援

◆文化芸術・エンターテインメント活動の再開支援

- ・ふるさと納税を活用した再開支援



HOKKAIDO LOVE!

優位性を活かした産業の創造

◆宇宙産業の成長産業化

- ・宇宙産業全体を推進するオール北海道の産学官連携体制を構築するとともに、大樹町の民間ロケット射場の事業化を支援等

◆地域におけるエネルギーの地産地消

- ・エネルギーの自給・地域循環の取組を促進するため、エネルギー資源を効果的・効率的に利用し、エネルギーの地産地消のモデルとなる取組を支援等

